

## 平和

## ● 大切にしたいこと

・戦争がひきおこしたことを伝えるだけでなく、未来に向かって歩む希望を、子どもや大人に手渡すことを考える。

・幼児も、戦争のことを真正面からみつめる力があることを信じる。

・平和をテーマにした作品を演じる前に、なぜこの紙芝居を見てもらうのかを、心をこめて伝える。特に子どもたちには必要。

・平和を直接のテーマとしていなくとも、すぐれた作品は共感のよろこびをつくりだし、平和を手渡すことができる。

## ● 作品の組み合わせ方

・二作品以上を演じるときは、平和を直接のテーマとした作品を何作もつづけるのではなく、「生きるよろこび」にあふれた作品を組み合わせる。すると、悲しみから心が解き放たれ、平和のよろこびを実感することができる。

・観客参加型の作品を組み合わせると、見る人はより

積極的な気持ちになり、演じ手とのコミュニケーションも深まるので、「ともに平和をつくろう」という思いが深まる。

## ● プログラム例〈子どもも大人も共通〉

『みんなでぼん！』

『太陽はどこからでるの』

『かりゆしの海』

『二度と』

『おおきくおおきくおおきくなあれ』

## ● プログラム例〈大人、平和の集まりなど〉

『あの日の空の青を』

『図書・まついのりこ著・童心社刊の中の一部』を読む

『かりゆしの海』

『象牙の櫛』

『二度と』

『よいしょよいしょ』

(ラストの自由場面に平和の文字を入れて)